



挨拶に立つ左より村木副会長，山田二郎新会長，藤平正夫新副会長



1989年(平成元年)
7月号(No. 529)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価一部 150 円

目次

- 平成元年度通常総会.....(1)
- 海外の山.....(3)
- 「ヒマラヤと政治」
- 計報 榎 有恒氏
- 追悼・西堀栄三郎元会長を偲ぶ
齋藤惇生.....(4)
- 報告.....(5)
- 「婦人懇談会」, 「総務委員会」
- 「平成元年度 サクラハイク」
- 追悼・山田 昇会員
八木原昭明.....(7)
- 会務報告.....(7)
- ルーム日誌.....(8)
- 新入・復活会員, 会員住所変更.....(9)
- 平成元年度除籍対象者.....(10)
- 収支計算書.....(10)
- 正味財産増減計算書.....(11)
- 貸借対照表.....(11)
- 財産目録.....(12)
- 収支予算書.....(13)
- 昭和63年度事業報告.....(13)
- 平成元年度事業計画.....(14)

平成元年度通常総会

新会長に山田二郎氏

海外登山基金創設も決める

平成元年度の通常総会が五月二十六日、東京・千代田区二番町の番町グリーンパレスで開かれた。この通常総会には会員二〇九二名(委任状を含む)が出席、議案

①昭和六十三年四月一日より平成元年三月三十一日事業報告および収支決算、財産目録承認の件②平成元年度事業計画案および収支予算案承認の件③平成元年一・二年度理事、監事および評議員選任の件④平成元年度除籍の件⑤その他、について慎重審議した結果、いずれもこれを原案どおり可決、承認し

た。議案審議に先立って挨拶に立った。今西寿雄会長は、会の現況にふれたあと、大要次のように語った。「昨年(の)の会費値上げにより今の財政が確立され、運営が非常に安定したことは、会員各位のご理解とご協力の賜であり、あらためてお礼申しあげる。事業年度において、三国友好登山の大成のあと、婦人懇談会のインドヒマラヤ・シヴァ峰登山、学生部韓国交流登山、学生部ネパール・クスムカングル登山も大成功を納めるこ

とができた。今後ともこのようにいわれる、自前登山に対して、会としても積極的に協力していく。会員交流の活性化を図ることを目的とした全国支部懇談会は、昨年七月十六、十七の両日、旭川一帯で実施し成功裡に終わった。今年(の)は山陰支部三十周年に合わせ、十月二十八・九日に米子で開催する。三国友好登山募金については、会員各位から多数の応募をいただき、法人募金と合わせ、約三億六〇〇〇万円に達した。このため約七〇〇〇万円余剰金が生まれるという嬉しい結果となり、これは海外登山基金としてプールし、今後の海外遠征に際しての援助資金にしたい。これに関連して、三国友好登山で活躍した山田昇隊員が、不幸にしてマツキンリーで遭難したことは非常に残念なことであり、心からご冥福をお祈りする。史占春中国登山協会主席、クマール・カドカネパール登山協会会長、H・C・サリンインド登山財団会長、S・イスの名ガイド、S・ブラヴァントさんを名誉会員に迎えたことは、国際交流のために意義深いも

とができた。今後ともこのようにいわれる、自前登山に対して、会としても積極的に協力していく。会員交流の活性化を図ることを目的とした全国支部懇談会は、昨年七月十六、十七の両日、旭川一帯で実施し成功裡に終わった。今年(の)は山陰支部三十周年に合わせ、十月二十八・九日に米子で開催する。三国友好登山募金については、会員各位から多数の応募をいただき、法人募金と合わせ、約三億六〇〇〇万円に達した。このため約七〇〇〇万円余剰金が生まれるという嬉しい結果となり、これは海外登山基金としてプールし、今後の海外遠征に際しての援助資金にしたい。これに関連して、三国友好登山で活躍した山田昇隊員が、不幸にしてマツキンリーで遭難したことは非常に残念なことであり、心からご冥福をお祈りする。史占春中国登山協会主席、クマール・カドカネパール登山協会会長、H・C・サリンインド登山財団会長、S・イスの名ガイド、S・ブラヴァントさんを名誉会員に迎えたことは、国際交流のために意義深いも

日本山岳会事務取扱時間

月、火、木、土曜 10時~20時
水、金曜 13時~20時

日曜・祭日は休み

図書室開室時間

日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時~20時

ルーム夏休み

8/14(月)~8/19(土)

とができた。今後ともこのようにいわれる、自前登山に対して、会としても積極的に協力していく。会員交流の活性化を図ることを目的とした全国支部懇談会は、昨年七月十六、十七の両日、旭川一帯で実施し成功裡に終わった。今年(の)は山陰支部三十周年に合わせ、十月二十八・九日に米子で開催する。三国友好登山募金については、会員各位から多数の応募をいただき、法人募金と合わせ、約三億六〇〇〇万円に達した。このため約七〇〇〇万円余剰金が生まれるという嬉しい結果となり、これは海外登山基金としてプールし、今後の海外遠征に際しての援助資金にしたい。これに関連して、三国友好登山で活躍した山田昇隊員が、不幸にしてマツキンリーで遭難したことは非常に残念なことであり、心からご冥福をお祈りする。史占春中国登山協会主席、クマール・カドカネパール登山協会会長、H・C・サリンインド登山財団会長、S・イスの名ガイド、S・ブラヴァントさんを名誉会員に迎えたことは、国際交流のために意義深いも

お知らせテロップ電話

234 六六五九

のであったと思う。二十一世紀に向けてのビジョンづくりについては、アンケート調査によりその第一歩が踏みだされた。五月二日に逝去された本元会長、榎有恒名誉会員の葬儀を、五月十七日、初めて日本山岳会葬として執り行なったが、多数の会員が会葬され、この場を借りてお礼申し上げる。今後とも海外との交流を深めながら、足元を見つめつつ活気のある活動を推進したい。

議事録署名人に南川金一・鳴原一男両会員指名のあと、昭和六十三年四月一日～平成元年三月三十一日事業報告および収支決算、財産目録承認の件について、山本健一郎監事から、監査の結果、正当妥当である旨が報告された。

事業報告(別記)は鳴原啓佑理事が行ない、収支決算(別表)は西村晃理事から内容説明が行なわれた。それによると同年度の収入は、予算額四五四七万円に対し、決算額五〇一万二九四五円。特に通常会費の納入率が九三%と順調に推移したこと、特定預金の利息増が目立ち、今財政が一段と健全、安定化を辿っていることが明らかとなり、支出面では予算額四五二五万五〇〇円に対し、決算額四七三〇万九四三七円で、将来ビジョン策定のための会員アンケート実施(通信・運搬費)、海外名誉会員来日旅費

負担(旅費・交通費)、長期計画積立金・登山特別基金の積増支出などに増加が見られるほか、全体的にバランスのとれた決算となった。

財産目録(別表)では、資産一億五五九六万九〇六七円、負債二八〇万二七六〇円で、差引正味財産は一億五三六万六三〇七円となった。

平成元年度事業計画案(別記)、収支予算案(別表)については同じく鳴原・西村両理事から説明があり、事業計画では、登山の指導と奨励に必要な各種集会、研究会、講習会、展覧会の開催のほか、山岳と登山に関する科学文献整理、山岳資料の収集、整備、管理や、「山岳」総索引、三国合同登山報告書発行などが計画されている。

これに伴っての収支予算も、収入については前年度通常会費納入率を勘案して四七七〇万五〇〇〇円に、支出もほぼ前年なみの四六七一万八九五〇円規模に定められた。

平成元年～二年度理事、監事および評議員(別記)選任の件では、今西会長が山田二郎新会長の略歴を紹介、また当日出席の新・再任理事、監事、評議員が壇上前で紹介された。平成元年度除籍の件については、紹介者を通じて対象者に極力期間内会費納入を働きかけることが付議された。

その他中保会員より、昭和時代を終

えたのを機に、日本山岳会八十五年史を編さん刊行したかどうか、との提案があり、次年度理事会への送付事項となった。

また、三国友好登山募金関係について西村理事より報告があり、それによると収入約三億六二八〇万円(うち会員募金八五六名・九七〇万円)、支出約二億八三三九万円、差引約七九四〇万円の黒字となり、三国合同登山報告書制作費などを除いた七〇〇〇万円を預り金として処理、海外登山基金を設けることになった。特にこのような多額の余剰金は、数千万円に及ぶ物資の寄附や、予備費を流用しないなど、今西会長(登山隊総隊長)、大塚博美副会長(同副隊長)、橋本清理事(同北側登山隊長)の内部努力、尽力によるものであるとつけ加えられた。

これに関連して大塚副会長は、「読売新聞社から公式の報告書が刊行され、あとは日本山岳会としての報告書を残すのみで、九〇%が終った感じである。七〇〇〇万円の海外登山基金はあくまでも原資であって、今後は海外担当理事を中心に運用委員会を設け、利子運用を図ることによって、海外登山に対する所期の目的が達成されることになる」と述べた。

この総会には、マッキンリーで遭難した故山田昇会員の実兄、山田豊さん

が、マッキンリー遭難対策本部長を務めた八木原園明会員と来会、山田豊さんは、「故人の遭難に際して、会員各位の物心両面のご支援、生前のご交誼に厚く感謝する」とお礼の挨拶に立った。

地球環境の保護を訴えながら北極行を続け、五月十四日北極点に到達した国際探検隊「アイスウォーク」のロバート・スワン隊長、大西宏隊員(共に会員)も来会、ロバート・スワン隊長は日本山岳会の協賛を謝したあと、「今回の成功は参加七カ国隊員の一致乱れぬ協力の賜である。大西隊員はタフで、よく頑張ってくれた」と強調、さらに「このきれいな北極がいつまでも残るよう、その保存を考えなくてはならない。次の遠征隊にもそのことを希望する」と環境保護を訴えた。

新会長に選出された山田二郎会長は、「①山田昇会員という優秀なクライマーを失ったのは非常に残念だが、登って降りてきてこそ山登り。命を大切にしたい②大自然を大切にしたい。そのための自然保護③仲間を大事にするのが山登りの基本」であるとし、「日本山岳会はアルパインクラブであるという点を基本理念とし、若い人の活力を生かしながら、多種多様な会の運営を展開したい。また、会の内部体制や組織についても、現代にマッチ

したものにしたい」と、その抱負を述べた。

退任の挨拶に立った今西前会長は、「任期中、最も思い出に残るものは、三国友好登山がそのすべてである」と現在の心境を語った。

続いて席を移しての懇親会では堀田弥一名譽会員が、「今西前会長のご苦勞を謝し、山田新会長のご活躍を祈る」と乾杯の音頭に立ち、その後なかなかな會員交歓が繰り広げられ、藤平正夫新副会長の閉会の辞をもって、平成元年度通常総会の一連のセレモニーは、とどこおりなく終了した。

なお、当日の会務報告によれば、會員數・名譽會員二九名、永年會員四〇名、終身會員六一名、通常會員四三・七名、計四四四七名。昭和六十三年度新入會員一八〇名、復活會員八名、物故會員三六名、退會二六名、除籍三六名で、物故會員は次のとおりであった。敬称略。

藤島玄(名譽會員)、竹節作太(同)、浜野正男(同)、川森左智子(同)、大島永明(永年會員)、小池文男(同)、片桐盛之助(同)、浅原重継(同)、織田収、久保田昭二、多田隆峰、浜岡透、鈴木真吾、倭島進、桑原武夫、水腰英隆、森谷周野、山口弘司、岡本包夫、森田茂、山県一雄、斉藤平七、平野勲、松田武雄、小島隼太郎、高橋定

海外の山

ヒマラヤと政治

ヒマラヤをいたただく国々で、登山気分など吹っ飛ばぶような状況が起きている。

一つは、中国。三月初めチベット市民蜂起三十周年を前に起きた市民たちのデモ、抗議行動を鎮圧するため、ラサに戒厳令が敷かれ、外国人はいっさい締め出された。日本を含む多くの登山隊が計画を延期するか、他へ転進することを余儀なくされた。

六月には学生、市民たちの民主化運動を押さえ込むため、北京など各都市で人民解放軍が出動、多くの血が流されたのは、周知の通りである。広場や道路に展開されたデモや集会とそれに次ぐ弾圧の様子は、テレビ、新聞で世界に伝えられ、その画面や写真が、「煽動者」逮捕の材料に使われたことも、衝撃的だった。

北京に滞在していた外国人のほとんどが、先を争って故国に引揚げ、欧米を中心に中国への「制裁」論議が高まった。既定の対外解放政策は変わらない、と当局が言明したのを受けて日本の商社が、真先に北京復帰を果たしたことも西側諸国の批判の対象になった。

もう一つはネパールである。インドの経済封鎖による物資不足が深刻化、登山どころではない状況が続いている。

中国との接近、とりわけ武器を買いつけたことが、インドを刺激したといわれているが、石油、医薬品、塩などの生活必需品が三月以来逼迫し、人々の暮らしを追い

詰めている。外貨収入につながる観光、登山などについてネパールは門を開いているものの、プロパンガスが手に入らないなどの不自由は覚悟しなければならぬ。

二つの大国にはさまれた小さな山の国が、一方と親しくなろうとすれば、もう一方が不機嫌になる。七月末にはこの問題でインド、ネパールの交渉が始まるというくらいいざれ解決に向かうだろうが、今後もヒマラヤの北と南の状況は注意深く見守る必要がある。

チベットについては、七月以降、「関係部門の承認を受けた十人以上の団体」に限り外国人の旅行を許可する、とのことだ。登山も一応支障ないことになった。

中国は国際的に孤立したくない、と考えている。西側諸国でもとくに日本には従来の友誼を維持してほしい、との姿勢で、経済、学術交流の各窓口機関は、一斉に日本側に計画の実行を迫っている。登山についても中国登山協会から「予定通り来てほしい」旨の書状が各登山隊に届いているようで、対応に迷う隊もあると聞く。

登山を第一と考えるか、国際情勢を含めて自分の視点を確立することを第一とするか、がここで問われる。どちらを選択するかはその人の生き方によるだろう。

海外の山を目指す者にとっては、「宇野ゲイシャ問題」も他人事ではない。政局の不安感から頼りとする円が急落したからだ。一ドル百二十円の時に支払うのと百四十五円で支払うのでは、支出は二割も違う。

世紀末の海外登山は、世界をどうとらえるか、の能力を問われる面がある。ヒマラヤにはヒマラヤの地政学があり、そこには文化を異にする固有の民族が住む。

山登り一筋に生きる者も、余暇で楽しむ者も、それらを理解しないと、やっていけない。(江本嘉伸)

研究所の理事として原子力の研究、安全応用に積極的であった。

人間は何事でも経験をつむために生きてきたんや、というのが西堀さんの人生論であった。接しているとそのみずみずしい感性と衰えを知らぬ知識欲にいつも圧倒された。そしてほのぼのとした暖かい心が常に感じられる人だったように思う。残念ながら永遠の青年西堀さんは、もうアンデレ西堀になつてしまわれた。心から御冥福を祈る。

報告

黒川能を見学して

婦人懇談会

昨年の黒森歌舞伎に続いて黒川能観賞の旅が婦人懇談会で企画された。

二月一日集合地の鶴岡駅前には、今年から運行を始めた酒田―渋谷間のハイウェイバスで到着の六名が、吹浦から参加の岡部御夫妻ら四名と合流。早朝というのに山形支部の佐藤節子さんが出迎えて下さり、そのまま村上支部長のお宅に案内され、夜が明けて全員が揃うまで休ませていただいた。

この度の宿をお願いした斉藤家まで分乗した車は暖冬で積雪ゼロの庄内平野を水飛沫を上げて走る。斉藤さん宅

報告

三月十一日開かれた第十五回新入会員オリエンテーションにおいて、望月達夫名誉会員が「JACとともに五十年」と題して講演した。同氏の講演から、JACという組織の特色、クラブライフや会員としてのあり方等について述べた部分を要約して紹介する。

(文責：総務委員会・南川)

日本山岳会は一九〇五(明治三十八)年に発足したが、その当時は会長というものはなかった。会長を置くようになったのは、たぶん私が昭和十三年に入会する数年前、昭和六年頃だったのではないか。このことに触れたのは、日本山岳会が非常に民主的な会であるということと言ったからである。当時は、現在の理事に当たる幹事という役職はあったが、それが特別なものではなく、会員は皆全く平等であるという民主的な風気が強かった。私が入会した当時も、どんな先輩でもよく話しかけた。小島鳥水さん、木暮理太郎さんといった、今では歴史上の人物がまだ健在の頃で、入会して間もなくそういった方々とも口をきくことができた。

そしてもう一つは、八十年以上にもなる長い伝統を持つような会は、往々にして外部から財政的な援助を受けてきている場合が多いと思うのだが、日本山岳会はそういうことを嫌い、受けたことがない。このルームをはじめ、山研、図書室の書籍等、すべて会が購入したり、会員の寄附、寄贈を受けたものである。外部からの撃射を受けたこともないし、受けることを嫌う会である。

そういうものが伝統といえたいと思う。私はそういうサブサバした気風が大変好きである。

私は入会して満三年になると同時に役員に引っぱり出され、それ以降、軍隊や仕事の関係で東京を離れた時に

外の四十年近くを、役員や評議員として何らかの会の仕事をやってきた。会員としてはやや特殊といえよう。だが、山はもととも好きなことであり、いやいややったりは思はない。仕事を持っている者がこういうクラブで活動をする場合、そこに何か楽しみを見出せなければ永續きがしない。そうでなければ会も成り立たない。ほとんどの会の仕事は理事・評議員や委員会の人たちの無報酬の労働によって成り立っているが、やはりそういうことが言えるのではないか。

今後の会のあり方について、私なりに感じていることを二、三述べてみたい。

最近中高年の山登りが多くなり、そういう人でバックグラウンドを持たない人の入会が増えており、会としてもそのために何かをしなければならぬ、ということも聞いている。私なりに考えるのは、自分の登りたい山があつてこそ、山登りというものが成り立つ。もともと山登りというのは、自分が登りたいということが発想の基であるから、誰かの計画に乗っからなければ山へ行けないというようなのは、私はあまり賛成できない。会が計画して「さあどうぞ」という形の懇親的な山行がたまにあることは結構だと思つたが、そういう企画がないと山へ行けないというのは望ましい姿ではないと思う。バックグラウンドを持つている人はその仲間と行けばよいし、そうでない人は会で見つけ、自分なりに計画して行くという山登りをぜひやって頂きたい。

私が入会した動機は、先輩の話をきいたり、あるいは文献などから何らかの山の情報を得るためであったが、入会して何年かしてから感じたもつと大切なことは、そこで非常に良い先輩や友人出会えたということであつた。それは私の人世にかけがえのない財産を残してくれ

では、この地方で王祇祭に必ず食へるという焼豆腐を凍らせた、しみ豆腐と十五程の長く切った午券の煮付けと地酒が用意されていた。勿論御飯は美味しい庄内米と漬物。

四時過ぎ、今年の当屋である剣持宅まで小雪舞う道を歩いて行く。演能は七時からと聞いていたが、既に襖、障子を取り払われた座敷は立錐の余地もない。どうやって割り込んだのか、とに角座ったものもう動けない。

七時近く五歳位の幼児の大地踏が始まり、式三番、難波等々続けられる内に、突然舞台の上にお酒や御飯が出て、出演者が夜食をとり始める。中入り(一と休み)。時計は二日の二時を過ぎていた。

私達も夜食をとり帰る。夜道は昼間からの雪が降り積り雪景色となる。再び当屋で道成寺を見終り、夜の白む四時半ごろ帰宅就寝。

翌朝、雪の羽黒山の予定が寝不足で来年廻しになり、春日神社に参拝、黒川能伝習館を見学など、伝統芸能の素晴らしさを堪能した。

お世話になった皆さんに心から感謝しつつ鶴岡駅頭で解散、車中の人となる。来年も又参加したいというグループができていた。

参加者十名 (渡辺富士子)



た。すぐれた先輩が綺羅星の如く並んでいた時代であったから、その方たちと山へも一緒に行くことができた。現在でもそういうことは不可能ではないと思う。そういう人的な結びつきを、ぜひ会を通じて作って欲しい。本会でなければそういうことはできにくいであろう。藤島敏男さんとか深田久弥さんといった人とは、他の所で知り合ったのではなく、この会を通じて知り合い、つき合ったのである。そういう人たちと山へ行くことができたのは非常に幸せだった。平等なおつき合いができたのは会員だったからだと思う。

山岳会が会員に対してでき得る最大のサービスは何かといえ、それは、ここへ来れば山の情報が必ず得られるという体制ではないだろうか。諸外国の山岳会からこれだけ資料が集まっている所は他にはないはずであり、海外委員会でも国毎に情報を集めているから、そういうものを機能的に拡充していけば不可能ではない。国内的には本会は各地に支部を持っており、その界内の情報はいちばん的確に握っているはずだから、そういうものを利用すれば、ルームへ来れば欲しい情報が得られるという体制は可能だと思う。そういうことが組織的にできていくことが、今後の会としては一番大切なことではなからうか。

平成元年度 さくらハイク

「弘法山」

林 栄 二

関東平野の西南は多摩丘陵をはじめ、大小の丘や台地が広がり、丹沢山塊へと続く。弘法山は大山から延びる

皆さんはせっかく入会されたのだから有意義にクラブでの生活を楽しんで頂きたい。入会するからには会から何かを得たいという気持があるのは当然であり、そうであってよいと思うのだが、すべての会員が永遠に会から得たいという気持だけでは、会は廃れていくと思う。会からいろいろなるものを吸収すると同時に、会に何かをつけ加えて頂きたい。皆さん方の持てる知識なり経験なりを会のものとして出して頂きたい。日本山岳会の権威などといわれるが、そういうものは会の建物の中にあるわけではなくて、会を支えている会員に権威のある人が多くいることによってそれが可能になり、会は輝くものである。会を支えているその時代時代の人たちが優れており、会員の質が高く、豊かな経験を持っていて人が多くいる会には魅力があると思う。

- 三國友好登山隊 公式報告
- 「写真集」 読売新聞社発刊
- ☆カラー写真一〇〇頁、テキスト 三一頁、資料一〇頁。
- ☆定価・五、一五〇円 (送料 四〇〇円)
- ☆会員価格・四、一五〇円

観光週間(八月一日〜七日)の目的

- ① 観光地の美化(ゴミの持ち帰り)
- ② 正しい観光觀念の普及(国際交流にも資する点)
- ③ その他(観光客を交通事故、火災事故等から守る)

総務委員会

浅間屋根の南端に位置し、平地から突然突き出したように、山の形状をなしている。いかにもここから丹沢の始まりを呼び掛けているようでおもしろい。それだけに高さこそ二五〇弱の低山でありながらその名は広く知らわっている。

今年の上岳会・新入会員歓迎と新田会員交歓「さくらハイク」はこの弘法

追悼

山田 昇 会員 (会員番号八六五五)

「引き返す勇氣」

を言いながら

八木原 罔 明

先鋭登山家の死は壮烈であるが故に哀しい。今回の山田、小松、三枝の死は、私の初めてのヒマラヤ登山での先輩の死ほどのショックはなかった。私自身が多くの死を見、覚悟もあった。しかし、眼をかけ、気にかけて、期待し、応援してただけに口惜しさも強い。

厳しい登山を追求し続ける者にとり、死は高い確率でやってくるのは皆知ってはいる。それでも自分だけは例外と思いつける。「オレに限って」と。私も「アイツに限って」と思っていた。

山田自身が「遭難は自分のミス」と言い切り、今年の冬一人でモンブランへ出掛ける前に残したテープに「登山は引き返す勇氣が大事だ。生きていてこそ次の山がある。死んでしまつてはその山で終りで、生きていれば次の登りたい山にも行ける。無事に帰る、引き返す勇氣が大事だ」と知った風なことを言っている。もち

山で四月二十三日、六〇余名の多数が参加し行われた。新宿発八時一分の小田急電車に乗り一時間余、秦野駅に下車、受付で参加名簿に出席をチェック、参加費を払ってネームカードと記念品をいただき、出発。小雨のぱらつく中、しばらく街を登山靴で通過。胸のカードがやや気恥ずかしいが、「みんな渡れば怖くない」式で、皆んな

が付けているとおかしくない。新入会員にとって初めての経験である。家がとぎれて、弘法山の標識が現れると、急に登山道になり、山らしい風景。小雨に濡れた木々の新緑が一層鮮やかで美しい。尾根道へ出ると、緩やかな木道の階段が続く。角柱の年輪側をモザイク状に並べてあり、重厚感がある。ほどなく今日のピーク弘法山・

ろん間違つてはいないが、今それを聞くと白々しく、空しく響く。

山田とは十五年ほど前のヒマラヤからのつきあいである。彼にとって初めての八〇〇弱峰登山であるダウラギリI峰南東稜が最初の山登りである。

三名を雪崩で亡くしながらも登山を続け、山田は登頂し、私はその前日の副隊長の死で最終キャンプで別れて下つた。その後の数多いヒマラヤ登山経験の中でも「もっとも厳しく、忘れられない登山だった」が山田や私の変らぬ印象であった。

爾来、私は山田を引き込んでのヒマラヤ通いを続けるが、あつという間に引き離され、山田は我々の山田だけでなく「世界の山田」になった。それでも「山田があつた三年早くヒマラヤにデビューしていれば」という思いが強かつた。

冬のアンナ南壁登山前に私は「三国合同隊」への参加をすすめた。期待通り縦走者となった。それも東の間の喜びだった。心残りは十四座の完登をさせてやれなかつたことだ。

権現山の頂上に到着。二つの東屋があり、ひとつは下界の眺めが素晴らしい。家々が箱庭の様に小さく並び、遠くかすんで見えない。「江の島はあつちかな、初島はこちちの方かな」と相模灘を眺めながらの談話が続く。

広がる下界がもし雲海なら……丹沢を背にしたここ弘法山は山塊の前衛の山、遠く伊豆七島へと続く連山の一つ、太古の昔は今日の海の奥深い底を山裾に、巨大な山岳を形成していたかもと、今立っているこの場所がいかにも古代の山岳ピークに立つロマンをしばしかみしめてみる。

東屋では、三つの特大コップフルと山岳コンロをフル運転しての「みそ汁」サーブス、全員に行き渡るまでには具をそのままに、お味噌と水を継ぎ足しての量産でした。さらに特別メニューとして「さうどん」のサーブスが続いた。小雨のため自己紹介などなく、全員で記念撮影した後、弘法山・大師堂へと出発。名物桜並木は爽やかな緑のトンネルに覆われていました。

会務報告

五月理事会

五月十日 十八時四十分
日本山岳会 集會室

出席者 今西会長、大塚、村木両副会長、嶋原、松永、太田、岡沢、田部井、織田沢、関塚、大橋、橋本、西村、大森、鈴木、早坂、浜口各理事

松田、平林、小倉、山野井各評議員
委任 小林、新井理事

今西〓本日、大塚、村木両副会長、松田評議員、橋本理事と秩父宮妃殿下のお見舞にうかがった。

榎 有恒氏の葬儀の件

村木副会長より五月十七日(水)に会葬として行方事になったので承認いただきたい旨の発言があり、承認された。

* 朝日、読売、毎日に葬儀通知を掲載する。

* 海外山岳会への通知および弔電依頼をする。

* 葬儀にあたって総務、集会、婦懇の方々を中心にお手伝いいただきたい

報告事項および審議事項

西村〓三国友好登山隊の収支、募金についての報告。監査法人に監査を受けた。余剰金が七九四〇万円あり、この処分案として海外登山基金を作る件についてご承認をいただきたい。(七〇〇〇万円を基金とし、残余は会の預り金とする)これは募金の成果(八三%)、現物寄附の成果(約七〇〇〇万円)、不測の事態が起きなかつたため、予備金の未使用、

財務担当の緊縮政策などすべての成果によるものであるとの説明があった。承認

大塚〓皆様のご協力で基金を作ることができた。資料編としての報告書を作る。これまでの登山特別基金、および長期計画準備金とは性格が違うので海外登山基金として別扱いとするが、名称、運用等については委員会を作り委任することとする。

委員会報告
自然保護〓五月十一日 渡辺兵力氏の講演会

山研〓四月二十八日に開所
医療〓六月十日十一日 第九回登山医学シンポジウム 於 昭和大学

村木(科学)〓国土地理院からの依頼の件があり望月達夫氏にお願いした

* 二五〇〇以上の山の公式標高発表にJACとして協力
* 「日本百名山フォトシリーズ」の監修依頼

学生部〓四月二十六日にクヌムカンダル隊の検討会を行なった。

山岳〓総索引作成中。会の集会の報告に山岳、会報を利用する。

海外〓アンケートによる海外山岳会状況の報告
村木〓国内のアンケートとともに肉付けして報告しなければならぬ。

「未来ビジョン討論会」の経過報告

(村木)
アンケート回答の内容については
* 会の在り方をはっきり示せという回答が多かつた。
* 会員の性格としては受身が多い。
* 刊行物に対する期待が大きい。

検討会は今後も続けるが今西会長の任期中に「理念」を定めたい。

村木試案は①登山の実行と推進 ②登山としての文化遺産を増やし活性化 ③自然保護 ④指導、中高年対策



(5月)

1日 チョモランマ会計監査

6日 チョモランマ会計監査

8日 「未来ビジョン」検討会

10日 理事会

11日 榎氏会葬打ち合わせ、講演会

「自然保護考」

12日 図書委員会

15日 さくらハイク写真交換会

16日 榎氏会葬打ち合わせ

17日 山研委員会、三水会

18日 フィルム委員会

19日 科学委員会

22日 総務委員会、山岳編集委員会

23日 自然保護委員会

24日 資料委員会
26日 支部長会議
31日 集会委員会

会員異動 (5月)

退会

小倉 勝男(四〇〇四)
織笠 巖(六八八二)
狩山 芳夫(六七七一)
大橋 顕義(九〇五二)
松沢 潤吉(一九六五)

物故

榎 有恒(三四一) 5・2
寺村 泰一(九七一五) 5・9
菊井巳喜男(四三七〇) 5・12
佐藤 篤孝(九四六三) 5・18

改姓

太田 寛治↓吉田 寛治(六一三二)
増田 洋子↓牧田 洋子(五四四一)

終身会員へ

松本 吉正(三三七五)
柴田 均二(二六五五)
吉村 健児(三一七三)

支部変更

五十嵐トシ子↓福島支部
山田 昭一↓京都支部
広瀬 幸治↓京都支部
新井 清↓京都支部
向井 裕彦↓京都支部

× ×

5月来室者363名

印刷・製本費	400,000	504,800	-104,800
通信運搬費	3,500,000	3,154,310	345,690
事業費計	24,400,000	22,662,998	1,737,002
2.管理費			
給料・手当	7,000,000	6,731,500	268,500
文具・消耗品費	200,000	169,686	30,314
印刷・製本費	1,900,000	1,554,935	345,065
旅費・交通費	600,000	791,670	-191,670
通信・運搬費	900,000	1,467,525	-567,525
火災保険料	100,000	77,000	23,000
修繕費	100,000	59,060	40,940
租税公課	585,000	416,150	168,850
光熱水料費	500,000	423,402	76,598
電話料	350,000	250,340	99,660
会議費	300,000	178,000	122,000
什器備品費	100,000	7,920	92,080
振替手数料	270,000	272,770	-2,770
支部運営費	2,950,000	2,929,500	20,500
福利厚生費	150,000	129,355	20,645
事務所管理費	650,000	694,300	-44,300
その他管理費	1,500,000	1,501,753	-1,753
負担金	0	135,000	-135,000
雑費	400,000	411,055	-11,055
管理費計	18,555,000	18,200,921	354,079
3.固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
4.特定預金支出			
図書出版研究基金支出		196,508	-196,508
長期計画積立金支出		3,238,364	-3,238,364
登山特別基金支出		1,450,646	-1,450,646
終身会費積立金支出		560,000	-560,000
退職給与積立金支出		1,000,000	-1,000,000
特定預金支出計	500,000	6,445,518	-5,945,518
5.予備費			
予備費	1,800,000	0	1,800,000
当期支出合計(C)	45,255,000	47,309,437	-2,054,437
当期収支差額(A)-(C)	215,000	2,803,508	-2,588,508
次期繰越収支差額(B)-(C)	18,349,391	20,937,899	-2,588,508

(注) 1. 長期計画積立金支出 ¥3,238,364 (同積立金積み増し ¥3,000,000)
 2. 登山特別基金支出 ¥1,450,646 (同積立金積み増し ¥1,000,000)

収支計算書

昭和63年4月1日から平成元年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	350,000	377,600	-27,600	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	2,715,000	285,000	
復活会費収入	0	105,000	-105,000	
通常会費収入	37,710,000	39,387,000	-1,677,000	
終身会費収入	0	560,000	-560,000	
会費・入会金収入計	40,710,000	42,767,000	-2,057,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,100,000	1,820,500	-720,500	
印税収入	30,000	24,010	5,990	
刊行物売上収入	500,000	521,070	-21,070	
その他事業収入	500,000	955,170	-455,170	
山研使用料収入	1,380,000	1,053,884	326,116	
事業収入計	3,510,000	4,374,634	-864,634	
4. 寄付金収入				
寄付金収入	0	50,000	-50,000	
5. 雑収入				
受取利息	500,000	1,922,124	-1,422,124	
雑収入	400,000	621,587	-221,587	
雑収入計	900,000	2,543,711	-1,643,711	
6. 特定預金取崩収入				
図書出版基金取崩収入	0	0	0	
7. 特定預金運用収入				
特定預金運用収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	45,470,000	50,112,945	-4,642,945	
前期繰越収支差額	18,134,391	18,134,391	0	
収入合計(B)	63,604,391	68,247,336	-4,642,945	

科 目	予算額	決算額	差異	備考
I. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,640,000	10,548,291	91,709	
図書費	950,000	793,141	156,859	
調査研究費	760,000	401,079	358,921	
指導費	1,150,000	886,363	263,637	
支部関係費	3,000,000	2,784,220	215,780	
海外諸関係費	400,000	618,970	-218,970	
山岳研究所運営費	2,000,000	1,695,746	304,254	
その他事業費	1,600,000	1,276,078	323,922	

預り金	279,760		
流動負債合計		502,760	
2. 固定負債			
退職給与引当金	2,300,000		
固定負債合計		2,300,000	
負債合計			2,802,760
[3] 正味財産の部			
正味財産			153,166,307
(うち基本金)			8,000,000
(当期正味財産増加額)			7,771,756
負債及び正味財産合計			155,969,067

(注1) 仮払い金 ¥2,000,000 (本年3月当学生会部クスムカン
グル峰登山隊の負傷事故の立替金)

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は、期末退職給与の要支給額の115%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金・預金、未収会費、仮払金、未払金、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託(三井)	2,380,000	0	0	2,380,000
〃(日本)	420,000	0	0	420,000
〃(中央)	5,200,000	0	0	5,200,000
合計(基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現金預金	14,999,801	16,487,159	
未収会費	3,536,500	2,953,500	
仮払金	0	2,000,000	
合計	18,536,301	21,440,659	
前受会費	247,900	223,000	
預り金	154,010	279,760	
合計	401,910	502,760	
次期繰越収支差額	18,134,391	20,937,899	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	36,006,808	0	36,006,808
什 器 備 品	4,780,500	0	4,780,500
合計	40,787,308	0	40,787,308

正味財産増減計算書

昭和63年3月31日～平成元年3月31日

科 目	金	額
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	2,803,508	
図書出版研究基金	196,508	
長期計画積立金	3,238,364	
登山特別基金	1,450,646	
終身会費積立金	560,000	
退職給与積立預金	1,000,000	9,249,026
増加額計		9,249,026
II. 減少の部		
1. 資産減少額		
棚卸資産	477,270	
図書出版研究基金	0	477,270
2. 負債増加額		
退職給与引当金繰入額		1,000,000
減少額合計		1,477,270
当期正味財産増加額		7,771,756
前期繰越正味財産額		145,394,551
期末正味財産合計額		153,166,307

貸借対照表

平成元年3月31日現在

科 目	金	額
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現金	145,564	
振替貯金	340,325	
普通預金	2,001,270	
定期預金	14,000,000	
未収会費	2,953,500	
仮払金(注)1	2,000,000	
棚卸資産	1,659,170	
流動資産合計		23,099,829
2. 固定資産		
基本財産		
貸付信託	8,000,000	
基本財産合計		8,000,000
その他固定資産		
土地	46,297,170	
建物	36,006,808	
什器備品	4,780,500	
図書出版研究基金	3,790,824	
長期計画積立金	13,269,837	
登山特別基金	14,744,099	
終身会費積立金	3,680,000	
退職給与積立金	2,300,000	
その他固定資産合計	124,869,238	
固定資産合計		132,869,238
資産合計		155,969,067
[2] 負債の部		
1. 流動負債		
前受会費	223,000	

正味財産	153,166,307
------	-------------

財産目録

平成元年3月31日現在

注1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳・山岳覆刻版等	1,110,750
服飾品・その他	クラブタイ ペンダント等	548,420
合 計		1,659,170

注2) その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A 事務所および図書室	金 額 (円)
場所 東京都千代田区四番町5番4	
構造 鉄筋コンクリート造、陸屋根・地下1階付5階建	
(事務所) 区分所有建物1階部分 103.32m ²	
宅地持分 1,124.56m ² ×339/10,000	72,720,170
=38.122584m ²	
(図書室) 区分所有建物1階部分 55.22m ²	
宅地持分 1,124.56m ² ×176/10,000	
=19.792256m ²	
計 158.54m ² 宅地持分 57.91484m ²	
B 上高地山岳研究所	
場所 長野県南安曇郡安曇村上高地国有林114い 林小班	9,583,808
構造 鉄筋コンクリート造(一部木造)1棟 100.69m ²	
合 計	82,303,978

2. 什器備品

品 名	取 得 年 月 日	取得価格	所在
大テーブル(2台セット)チーク材 750×1200×720	48. 7. 31	164,200	上高地
ソファセット, チーク材レザー張	48. 7. 31	178,000	上高地
書庫内移動書架一式, コンパックル	53. 2. 10	1,500,000	図書室
応接セット一式, 張布イス, テーブル XLE-30	53. 8. 2	218,000	談話室
閲覧用テーブル(2台), 木製	53. 9. 28	250,000	図書室
ライティングビューロー, 木製	54. 6. 23	280,300	図書室
テレビ, シャープ CT-2601 (寄贈品)	55. 6. 4	80,000	談話室
ビデオカセットレコーダー, シャープ VC-7000	55.12.27	116,000	談話室
フィルム収納キャビネット(スチール 製)	56. 8. 8	254,000	図書室
図書カード容器, 木製3段	56. 9. 12	200,000	図書室
書棚, 木製2段	56.12.22	500,000	図書室
16mm 映写機 16-CL(MO)	61. 5. 13	156,000	図書室
MS パウチ H-140	61.10.17	95,000	事務所
東芝パーソナルワープロ JW-R70FII	62. 3. 12	89,000	事務所
木製書架ガラス戸付(2台)	62. 9. 24	700,000	図書室
合 計		4,780,500	

財産目録記載外のその他物品リスト(主として受贈益)

1. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	63年度 受入冊数 966冊	8069冊
洋 書	63年度 受入冊数 264冊	2839冊

科 目	金 額	
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	145,564	
振替貯金		
東京地方貯金局	340,325	
普通預金		
協和銀行市ヶ谷支店	1,450,778	
三菱銀行市ヶ谷支店	258,872	
三和銀行本郷支店	183,115	
中央信託銀行本店	709	
三井信託銀行新宿西 口支店	51,384	
日本信託銀行本店	56,412	
定期預金		
協和銀行市ヶ谷支店	14,000,000	
未収会費 310名分	2,953,500	
仮払金	2,000,000	
棚卸資産 *1	1,659,170	
流動資産合計		23,099,829
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
貸付信託		
三井信託銀行本店	2,380,000	
日本信託銀行本店	420,000	
中央信託銀行本店	5,200,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2) その他固定資産 *2		
土地 57.9148m ²	46,297,170	
建物 259.23m ²	36,006,808	
什器・備品	4,780,500	
図書出版研究基金(定期 預金・協和市ヶ谷)	3,790,824	
長期計画積立金(定期 預金・協和市ヶ谷)	13,269,837	
登山特別基金(定期預 金・協和市ヶ谷)	13,744,099	
登山特別基金(普通預 金・協和市ヶ谷)	1,000,000	
終身会費積立金(定期 預金・協和市ヶ谷)	3,680,000	
退職給与積立金(定期 預金・協和市ヶ谷)	2,300,000	
その他固定資産 合計	124,869,238	
固定資産合計		132,869,238
資産合計		155,969,067
[2] 負債の部		
1. 流動負債		
前受会費 25名分	223,000	
預り金 職員に対する 源泉所得税	279,760	
流動負債合計		502,760
2. 固定負債		
退職給与引当金	2,300,000	
固定負債合計	2,300,000	
負債合計		2,802,760

寄付金収入	0	0	0
5.雑収入			
受取利息	800,000	500,000	300,000
雑収入	500,000	400,000	100,000
雑収入計	1,300,000	900,000	400,000
6.別途会計運用収入			
別途会計運用収入	0	0	0
当期収入合計(A)	47,705,000	45,470,000	2,235,000
前期繰越収支差額	20,937,899	18,134,391	2,803,508
収入合計(B)	68,642,899	63,604,391	5,038,508

科 目	予算額	前年度額	増 減	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,617,950	10,640,000	△ 22,050	
図書費	950,000	950,000	0	
調査研究費	800,000	760,000	40,000	
指導費	870,000	1,150,000	△280,000	
支部関係費	3,000,000	3,000,000	0	
海外諸関係費	200,000	400,000	△200,000	
山岳研究所運営費	2,181,000	2,000,000	181,000	
その他事業費	1,800,000	2,000,000	△200,000	
印刷・製本費				
通信運搬費	3,500,000	3,500,000	0	
事業費計	23,918,950	24,400,000	481,050	
2. 運営管理費				
給料・手当	7,200,000	7,000,000	200,000	
文具・消耗品費	150,000	200,000	△ 50,000	
印刷・製本費	1,000,000	1,900,000	△900,000	
旅費・交通費	700,000	600,000	100,000	
通信・運搬費	1,000,000	900,000	100,000	
火災保険料	100,000	100,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	
租税公課	600,000	585,000	15,000	
光熱水料費	500,000	500,000	0	
電話料	300,000	350,000	△ 50,000	
会議費	300,000	300,000	0	
什器備品費	100,000	100,000	0	
振替手数料	300,000	270,000	30,000	
支部運営費	3,100,000	2,950,000	150,000	
福利厚生費	150,000	150,000	0	
事務所管理費	700,000	650,000	50,000	
その他管理費	1,300,000	1,500,000	△200,000	
負担金	0	0	0	
雑費	400,000	400,000	0	
管理費計	18,000,000	18,555,000	△555,000	
3. 特定預金支出				
特定預金支出	3,000,000	500,000	2,500,000	
4. 予備費				
予備費	1,800,000	1,800,000	0	
当期支出合計(C)	46,718,950	45,255,000	1,463,950	
当期収支差額(A)-(C)	986,050	215,000	771,050	
次期繰越収支差額(B)-(C)	21,923,949	18,349,391	3,574,558	

昭和 63 年度事業報告

(63. 4. 2~1. 3. 31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、講演会等の開催
 (1) 集会、講演会

2. 絵 画

題 名	種類, 号数	作者 名	掲載, 保管場所
白 馬 岳	油 A-50	中村清太郎	日本民族資料館
富 士 山 麓	油 A-25	茨木猪之吉	日本民族資料館
田代池の白樺	油変形-6	中村清太郎	談話室
群 狼	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
伊 豆 半 島	油 — 10	茨木猪之吉	松本アルプス 山岳館
針 の 木 峠	油 — 10	茨木猪之吉	図 書 室
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス 山岳館
初冬の両神山	油 — 10	茨木猪之吉	図 書 室
鳥 (カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
メールアドレス	エッチング		図 書 室
モンブラン	エッチング		松本アルプス 山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラーギントワイト	図 書 室
ユングフラウ	油	山里 寿男	集 会 室
涸沢より北穂高	水彩-6	山里 寿男	松本アルプス 山岳館
槍ヶ岳初夏	油 — 10	中村清太郎	集 会 室
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	談話室
北穂高滝谷	油 — 25	足立源一郎	談話室
或朝の槍ヶ岳	油 — 25	足立源一郎	集 会 室
北穂高岳主峰	油 — 25	足立源一郎	談話室
槍ヶ岳	油-P8	足立源一郎	集 会 室
タンボチェの僧院	水彩-4	清野 恒	松本アルプス 山岳館
シェルパニの親子	水彩-4	清野 恒	松本アルプス 山岳館
冬の山(清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス 山岳館
ブカヒルカ・ノルテ	水彩	渡辺 九郎	事 務 室

* 他の絵画, 写真 省略

3. フィルム

「マナスルに立つ」他 62 点

社団法人日本山岳会昭和 63 年 4 月 1 日~平成元年 3 月 31 日までの収支計算書, 正味財産増減計算書, 貸借対照表および財産目録を監査し, 正当妥当なことを認めます。

平成元年 4 月 10 日

社団法人 日本山岳会

監事 山本健一郎

監事 太田 敬

収 支 予 算 書 (案)

平成元年 4 月 1 日から平成 2 年 3 月 31 日まで

科 目	予算額	前年度額	増 減	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	350,000	350,000	0	
2. 会費・入金収入				
入金収入	3,000,000	3,000,000	0	
通常会費収入	39,000,000	37,710,000	1,290,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入金収入計	42,000,000	40,710,000	1,290,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,200,000	1,100,000	100,000	
印 税 収 入	20,000	30,000	△ 10,000	
刊行物売上収入	1,000,000	500,000	500,000	
その他事業収入	700,000	500,000	200,000	
山岳研究所使用料収入	1,135,000	1,380,000	△245,000	
事業収入計	4,055,000	3,510,000	545,000	
4. 寄付金収入				

- 5月17日 山岳地図の作り方Ⅰ 児玉 茂 本会
 6月14日 山岳地図の作り方Ⅱ 児玉 茂 本会
 6月16日 遭難救助机上講習会 金子, 渡辺 本会
 6月18日 雪上技術講習会 松永敏郎, 小林政志 立山
 6月18, 19日 岩登り講習会 丸山, 金子, 渡辺 小川山
 1月14~16日 スキー技術講習会 猪苗代
 2月18~19日 スキー技術講習会 猪苗代
 3月3日 第二期山岳地図の作り方Ⅰ 児玉 茂 本会
 3月25, 26日 山岳スキー講習会 猫魔ヶ岳
2. 登山施設の改善, その他登山のために必要な事業
 * 上高山山岳研究所を4月29日~10月29日まで開所
 * 登山に関する図書, フィルム, スライド等の充実
 * 山岳博物館準備のための資料収集と管理
3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
 * 各大学医学部山岳部による夏山診療所開設(槍ヶ岳, 穂高湖沢, 徳沢園, 五色沼, 唐松三俣山荘, 白馬岳, 合戦小屋, 立山, 尾瀬)
4. 自然保護活動の推進
 * フィールドマナーノート(一般向け)の配布
 5月29日 自然保護研修会 森林公園
 7月20日 屋久島ロープウェイ遊歩道建設中止要望書を環境庁長官, 運輸大臣, 林野庁長官等に提出
 9月3, 4日 全国自然保護集会 上高地
5. 海外登山の企画および海外との交流
 2月~5月 中国, 日本, ネパール1988年チョモランマ/サガルマータ友好登山の実施
 7月24日~8月24日 婦人懇談会インドヒマラヤ・シヴァ峰登山の実施
 8月24日~9月13日 学生部韓国交流登山の実施
 2月12日~3月29日 学生部クスムカングル登山の実施
6. 機関誌などの発行
 * 「山岳」83年(1988年)号の発行
 * 会報「山」514号~525号の発行
 * 「山日記」1989年版の発行
 * 「登山医学」第8巻の発行
7. 目的を同じくする海外山岳会, 団体との情報交換
 * 14カ国19団体との情報交換
8. 将来ビジョン策定のための会員アンケートの実施

平成元年度事業計画(案)

(1. 4. 1~2. 3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会の開催
- (イ) 集 会
- * 懇親山行 伊吹山 4月15, 16日
 * 雪上訓練 未定 5月
 * 若葉会山行 未定 6月
 * 法大ヒマラヤ登山報告会 本会 6月
 * 第43回ウェストン祭 上高地 6月3, 4日
 * 学生部ヒマラヤ登山報告会 本会 6月
 * フィルム映写会「日本の山」 本会 前期
 * 沢登り講習会 東京近郊 7月
 * 山の科学に関するエキスカージョン 未定 7月
 * 上高山山研の集い 上高地 7月
 * この人と語ろう「和田城志さん」 本会 7月
 * 農大ナンガパルパート報告会 本会 9月
 * 「山を語る」講演会 本会 未定
 * 集会委員会山行 妙義山 10月
 * ビデオ技術指導山行 未定 後期
 * 全国支部懇談会 山陰 10月28, 29日

- 4月15日 談話会「山の航空写真撮影」 大森弘一郎 本会
 4月17日 シヴァ峰初登頂の話 鈴木 茂 本会
 4月17日 新入会員との日帰りハイク 浅間嶺
 5月14, 15日 若葉会山行 西吾妻山
 5月30日 「初めてのヒマラヤ」 野沢 公 本会
 6月4日 「ナンドデヴィと私の山」 A.カーター 本会
 6月4, 5日 第42回 ウェストン祭 信濃支部 上高地
 6月7日 映写会「栄光最後の記録」 塚本福治郎 本会
 6月10日 談話会「高山植物」 宅間 清子 本会
 6月21日 講演会「山を語る」 石間 信夫 本会
 6月28日 「ジャワの山登りから」 児玉 茂 本会
 7月1日 講演会「戸隠修験道」 宮本袈裟雄 本会
 7月2, 3日 山研の集い 長沢 和俊 上高地山研
 7月7日 海外旅行のマナーについて 中村 テル 本会
 7月12日 「冬期アンナプルナI峰」 八木原園明 本会
 7月16日 支部事務局担当者会議 北海道支部 旭川文化会館
 7月16, 17日 全国支部懇談会北海道大会 北海道支部 旭岳一帯
 7月16, 17日 探索山行「戸隠修験道および九頭龍信仰」 二沢 久昭 戸隠山
 9月7日 「南極基地さまさま」 村山 雅美 本会
 9月10日 現地小集会 八十里越
 10月18日 シヴァ峰登山報告会 田部井淳子他 本会
 10月22日 第21回 図書交換会 本会
 10月23日 現地小集会 大源太山
 10月25日 講演会「映像の変遷について」 川合 周 本会
 10月26日 学生部韓国登山報告会 松原 尚之他 本会
 10月29, 30日 自然保護集会山行 尾瀬
 11月13日 第25回 学生部マラソン大会 皇居周辺
 11月17日 「未登峰チャクラギール」報告会 熊谷 明 本会
 11月20日 現地小集会 四阿山 本会
 12月3日 支部長会議 本会
 12月3日 年次晩餐会 私学会館
 12月4日 記念山行 大楠山
 12月9日 講演会「三国友好登山隊の気象予報」 富田賢二, 奥山 巖 本会
 12月10日 忘年会 本会
 12月18日 現地小集会 権現山
 1月13~15日 スキー懇親会 八尾尾根
 1月20日 談話会「ゴビ砂漠を見て」 石井恵美子 本会
 2月2日 フリーターキング「この人と語ろう」 今井 通子 本会
 3月5日 大型哺乳類観察会 宮ヶ瀬ダム
 3月10日 講演会「日常のトレーニング効果」 浅野 勝巳 本会
 3月11日 第15回 新入会員オリエンテーション 本会
 3月17日 第17回 山岳史懇談会 渡辺 兵力 本会
- (2) 研 究 会
 4月16日 シンポジウム「危険な動物と安全登山」 太田原美作他 本会
 6月11, 12日 第8回 日本登山医学シンポジウム 田中 壮吉(会長) 水上 本会
 10月21日 研究会「高所登山用酸素装置を考える」
- (3) 講 習 会
 4月16~18日 雪上技術講習会 松永敏郎, 小林政志 富士山

<p>*山に関する貴重なフィルム、スライド、テープ、アルバム等の複製および貴重な資料の収集、整備、管理</p> <p>*山岳資料の整理</p> <p>*JACの自然保護活動の歴史の調査、編集</p> <p>*登山医学に関する調査研究</p> <p>3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導</p> <p>*岩場での遭難救助講習会 小川山 6月</p> <p>*夏山診療所の開設(槍ヶ岳他) 7月~8月</p> <p>*高層気象、雪崩についての講習会 11, 12月</p> <p>*海外登山時の雪崩等事故防止についての講演会 未定</p> <p>4. 自然保護活動の推進</p> <p>*自然保護全国集会 未定 9月</p> <p>*自然観察山行 未定 数回</p> <p>*自然保護に関する講演会 未定 2回</p> <p>*自然環境保全のための現地視察 未定 未定</p> <p>*自然保護教育研修会 未定 未定</p> <p>5. 機関誌などの発行</p> <p>*「山岳」第84年(1989年)号の発行</p> <p>*「山岳」総索引の発行</p> <p>*会報「山」第526号~第537号の発行</p> <p>*三国合同登山報告書発行</p> <p>*「登山医学」第9巻の発行</p> <p>*クスム・カングル登山隊報告書発行</p> <p>6. 国内および外国山岳団体との連絡、情報交換</p> <p>*国内関係団体(日山協、都岳連、その他)との密接な連絡</p> <p>*海外登山団体との機関誌および情報の交換</p> <p>7. その他目的を達成するために必要な事業</p> <p>*山岳図書の拡充をはかる</p> <p>*その他目録を達成するために必要な事業を行う</p>	<p>*支部事務局担当者会議 山陰 10月28, 29日</p> <p>*山の植物を尋ねる山行 未定 10月</p> <p>*第22回「山岳図書交換会」 本会 10月</p> <p>*岩登り講習会 小川山 10月</p> <p>*岩登り講習会 未定 11月</p> <p>*集会委員会山行 吾妻山 11月</p> <p>*マラソン大会 皇居周辺 11月</p> <p>*年次晩餐会 私学会館 12月2日</p> <p>*支部長会議 本会 12月2日</p> <p>*集会委員会山行 大菩薩嶺 12月</p> <p>*スキー集会 未定 1月</p> <p>*この人と語ろう 本会 2月</p> <p>*集会委員会山行 加波山 2月</p> <p>*第21回「山岳図書を語る夕べ」 本会 2月</p> <p>*第18回「山岳史懇談会」 本会 3月</p> <p>*山岳スキー講習会 未定 2月~3月</p> <p>*新入会員オリエンテーション 本会 3月</p> <p>(ロ) 研究会</p> <p>*三国友好登山隊のタクテックスに関するシンポジウム 本会 4月6日</p> <p>*登山に有意義なテーマのシンポジウム 本会 10月</p> <p>(イ) 展覧会</p> <p>*第27回「この一本展」 本会 2月</p> <p>(ニ) 講演会</p> <p>*登山、山岳の科学研究に関する講演会 本会 未定</p> <p>*登山医学に関する講演会 本会 未定</p> <p>2. 登山施設の改善、その他登山のための適切な事業</p> <p>*上高地山岳研究所の開設 4月~10月</p> <p>*山岳と登山に関する科学文献整理(山の科学文献目録追補作成)</p>
---	--



この電話でもお知らせしています
☎ 234-6659

◎恒例ビアパーティー

日時 九月二日(土) 十七時より
場所 日本山岳会集會室
会費 二千元
ゆく夏を惜しんで語り、飲みましよう

◎都立大学牧野標本館 小林純子先生と鎌倉の山を歩く会

日時 十月一日(日) 午前十時鎌倉駅西口集合 小雨決行 台風のようなときは中止 婦人懇談会
申込九月二十日まで日本山岳会事務局

◎自然保護全国集會は

十月七~八日(日)
戸隠・越水ヶ原で開催
「テーマ」一緒に歩いて
山の環境保全を考えよう

今年の自然保護全国集會は、山を歩き、自然の中で、山岳会と自然保護との関わり合いについて話し合います。一般の会員の参加を歓迎します。

(詳細は次号)

自然保護委員会

訂正 前号会報528号9ページ上段に「水越」とあるのはすべて、「水腰」の誤りですので、ご訂正をお願いいたします。

「編集後記」▼会報編集委員会の新委員は次のとおりです。
松田雄一、岡沢祐吉、泉久恵、江本嘉伸、小倉厚(担当理事)

▼なお、一時、本委員会で担当していた本誌の図書紹介欄は本年度からは本来の姿に返し、図書委員会で行うことになりました。

▼また、編集代表者の変更に伴い、すべての原稿送付先は左記宛にして下さい。
338 浦和市木崎5-15-8 小倉厚
▼とにかく委員一同、大いに頑張りますので、乞ご協力。(〇)

平成元年七月二十日
102 東京都千代田区四番町五-14
サンビュウハイツ四番町

発行所 社団法人 日本山岳会
発行人 山田二郎
編集代表 小倉厚
電話 東京(20) 四四三三
振替口座 東京三一四八二九番
東京都港区赤坂一-13-16
赤坂グレースビル
印刷所 株式会社 技報堂